

英 知 通 信

発行
英知大学
兵庫県尼崎市若王寺
2-18-1 (〒661)
TEL (06)491-5083
編集
英知大学広報室

昭和61年12月15日

英 知 大 学

No.49

開学記念講演会並びに 第十二回親睦パーティ開催

絶好の秋日和に恵まれた十一月二日(日)に、恒例の本学開学記念特別講演会並びに後援会主催第十二回親睦パーティが開催された。この親睦パーティは後援会が先生方を招待して、昼食を共にしながら打ち解けて懇談し、大学の教育方針を理解すると共に、相互の親睦を深めるために毎年開催されているもので、本年は十二回目であった。

当日は本館四〇一教室で午前十時半から、関西学院大学学長、武田建先生が「青年を理解する」と題して講演され、父兄・教員並びに人間関係講座等の約二百名の聴衆に深い感銘を与えた。(別掲講演要旨参照)

続いて昨年、学生の円満な人間形成に役立つ課外活動を一層盛んにするためのクラブ奨励金の贈呈式が行われた。後援会長・学長・学生部長の挨拶や激励の言葉に引続き、体育部、文化部の二十七クラブの代表者に対し、後援会長より奨励金が贈与され一同激励の拍手が続いた。

更に正午過ぎから学生食堂で親睦パーティが行われた。菅野副会長の開会のことばに続いて福島会長並びに井上学長の挨拶があり、菅野副会長の発声で乾杯し、会食・懇談に入った。最後に中尾副会長が閉会のことばを述べた。パーティの参加者は父兄九十八名、教員二十五名、事務局課長五名で、中には東京都・静岡県・広島県・岡山県・岐阜県等の遠方から参加された方もあり、夫婦同伴の出席も二十組に上った。各科学年別に十一のグループに分かれ、グループ毎に授業担当の二乃至

四名の先生方を囲んで着席し、和やかな雰囲気の中に子女の教育や当日の講演内容等について熱心な話し合いが続き、時のたつのも忘れる程であった。閉会后、父兄の方々は学生の催し物や模擬店などに立ち寄り、学生と共に和やかな学園のひとときを楽しんでおられた。



第二十回英南戦

十一月十五日(土)・十六日(日)の両日、名古屋の南山大学体育館並びにグラウンドにおいて、恒例の英南戦が開催された。尚、今年のパドミントンの試合が他の公式戦と重なったため、一週間早く、八日(土)に行われた。

当日、本学からは井上学長をはじめ、和田学生部長ら教員八名、弥左

学生課、選手を含め学生一三五名が大型観光バス三台に分乗して、十五日午前八時本学を出発し、予想していた交通渋滞にもかわらず定通り十二時過ぎに南山大学に到着した。十二時四十分より同大学体育館において開会式が行われ、両学長がそれぞれ挨拶を交わした。その後、本学バレー部の男子部員と南山大学バレー部の女子部員によって選手宣誓が行われた。開会式と同時にスケジュールの都合上、洋弓男・女の試合が行われた。開会式終了後、二時よりバスケットボール女子のオープン戦、サッカー、硬式庭球男・女、卓球の試合が行われ、翌十六日にはバレーボール男・女、硬式庭球男・女バスケットボール男子のオープン戦が行われた。

それらの試合の中で本学は、洋弓女子が勝ち、それ以外の種目においては力及ばず惜敗し、結局総合成績九対一で南山大学が優位を占めた。しかし、私の見た限り、総合成績こそ昨年より落ちたものの、南山大学との実力の差が確実に縮まっているクラブが数部見られたように思う。中でも、今年クラブに昇格したばかりの男子バレー部は、かなり白熱した試合が行われていた。

今年で英南戦も第二十回になり、一つの大きな節目を迎えた訳である。そろそろ歴史というものも感じられるこの対抗試合、これから先、単なるイベントとならないために我々は、今年の取組を来年に活かし、一年でも早く南山大学に追い付き、追い越せるよう努力しなければならぬ。

最後に、英南戦開催に当たり、ご協力頂いた諸先生方並びに関係者の方々、実行委員・選手諸君に改めて深く感謝致します。

(学生会体育局長 中井敏統記)

第二十三回英知祭

第二十三回英知祭は、十月三十一日の前夜祭より十一月三日までの四日間、「英知は、微妙にカラフルメイク」をテーマに本学キャンパスで開催された。

三十一日の前夜祭では、午後二時より恒例の田吾作大行進が行われ、園田の住民との友好を深め、夜には三田伸子の率いる放送局が樋口欣也君と共に Bonfire を催し、燃え盛る炎を囲んで学生達が踊り狂った。一日は学生会館で大画面スクリーンを設置し、映画やファミコン大会を楽しんだ。英知牧場ではプロレス大会があり、力自慢の若人が技を競い合った。夜には Beer Party があり、軽音楽部、フォークソング部の生演奏をバックにして老若男女入り乱れて、お互いを認識しあった。

二日には、西語劇、英語劇、ラゲビー部試合、軟式野球部試合、学内コンサートがあり、それぞれ自慢の技を発表した。高野郁子君はパンチDビデットを主催し、中沢幸代君はミスター英知を担当し、共に大好評であった。当日は大学の講演会や後援会の親睦パーティが行われたの來場され、英知ファミリー一色に染まった。

三日は放送劇、邦楽演奏会、サッカー部試合、アメリカン部試合もあり、芸能人が来て、お笑いの花をプレゼントし、金啓文君が田中希和先生とコントを行い、皆を驚かせた。宿功先生や大教大雅楽会・アプサラスも応援に駆けつけて下さり、「古典音楽における東洋と西洋の出会い」というイベントを行い、聴衆は文化とは一体、何かを考えた。

更に今、若者達の間で話題の
(三頁五段目へ続く)

開学記念講演(要旨)

「青年を理解する」

関西学院大学長 武田 建氏



私が心理学を多少かじりまして、それからスポーツのコーチをしていくものですか、その中から一時間足らず、皆様と色々の事を考えてみたいと思います。

私はアメリカン・フットボールの大学の監督をしていて、現在は大学の学長をしながら高校生のコーチもしています。十数年前、大学の監督になって駆出しの頃、アメリカのインディアナ州のノートルダムという有名な大学があります。大学も有名ですが、フットボールはもっと有名ではないかと思えます。その監督さんから、監督の役目は、選手にやろう・学ぼうという意欲を持たす事だと教わりました。彼と色々話をし、私自身最近考えてみますと、教師とか親とかコーチというのは、兎角高い目標を掲げて、頑張れ、頑張れと言いつづけるのではなからうかと思えます。

な事です。大学は、一年生でもよい選手は試合に出せるが、高校は三年と一年とでは大人と子供ですから、高校一年は試合に出せない。選手は殆んど三年で、一年たつと抜けてどこかに行ってしまう。また新しい選手をつくる。これの繰り返すです。四連覇は、二度と出来ない幸せでなからうかと思えます。

毎年シーズンの始めに打倒市立西宮高校が合言葉で、市立西宮高校を破れば兵庫県で勝てる、と言っていたが、昨年は、最初の目標が打倒仁川学園であった。仁川学園は一回戦で脱落する事が多いが、仁川学園に勝ち、星陸高校に勝ち、次に市立西宮高校に勝ち、更に大阪に勝ち、関西制覇し、遂に日本一となった。我々は身近な目標を達成する事が出来なければ、挫折感ばかりでないかと思う。

十年昔、吉田さんが阪神タイガースの監督になられた時、私は吉田さんと対談させられた。その時、「監督やコーチの真価は勝星だけでは計れませんよ。昨年十対〇で大敗したチームに負けても、四対三、二対一と善戦すればよいのでなからうか。」と同情したら、吉田さんは「それはアマでは通用するけれど、プロでは即優勝しないと通用しませんよ。」と言われた。そして二年で首になられた。昨年また監督になられたが、吉田監督のボキャブラリーが乏しくなった。二つの事しか言われない。「挑戦」と「一丸となる」の二つであった。挑戦者は、弱いチームは皆なれる。昨年はうまくいって優勝できたが、今年も優勝す。思っている

たら、始めからあまり目標が高すぎた駄目になった。

次に心理学の実験の話をしよう。アメリカのフィラデルフィアのフィアフィア大学のセリーグマーという心理学者がいますが、その方は動物実験で有名な方で、犬を捕まえて来て四本の足をロープで縛ってしまいい、犬は横たわって六十数回流す。犬は逃げられるようになってしまいう、逃げない。犬はうずくまってしまいう。彼はこれを学習された無気力感と名付けた。人間も一緒ではなからうかと思う。出来もしない目標に、頑張れ、頑張れと言われたら、選手や子供はもうやろうという意欲をなくしてしまう。むしろ我々は、まず、本人が努力したら達成出来る目標を与え、それが出来たら次に……というように、最終的に高い所に持っていくのが教師や親の役目でないかと思う。

反省すると、何故我々は高い目標を選手や学生や子供に要求するの。一つには、願望達成という事があると思う。マスコミは、時々私の事をかつての名選手と言うが、それは真赤なうそで、私は関学の中・高・大学のアメリカン・フットボールの部員であったが、選手ではなかった。一度、大学二年の時、第四番目の選手として試合に出してもらった。失敗を重ねた。こんな下手くその私が、コーチや監督になると、難しい事を色々やらせようとする。私はコーチとして、選手に私の夢を託している。これはコーチだけでなく、親や教師は皆、同じだと思う。自分はこのいう事が出来なかったから、息子や娘はこういう風にやってほしい。ここに落とし穴があるのでないか。私は選手がタックルをミスすると、発狂しそうになる。それは、

私の昔の欠点を見るような気がするから。これが親、教師、コーチの真実でなからうかと思う。自分の出来なかったような事を子供達に要求しているのではなからうか。

コーチは試合に出ないから、選手の欠点ばかり見つける。子供達や選手達の悪いところを直そうとするから、悪いところばかり指摘する。子供や選手達は、悪いところばかり指摘されるから嫌になってしまいう。コーチは成績がよくなくても、選手な当たりに前の事だと言う。これは、選手にとつてつらい事、子供にとつて嫌な事だと思う。こんなミスをしていていいのではないか。悪いところを注意するのはコーチの役目だ。しかし、よく言った事を言ってもやらねば選手達は励みにならない。これは大切な事だ。結果を言ってもやるのは大きな励みになる。この頃の学生は、大学に入る前は勉強したかも分からぬが、入学したら勉強しない。欠席も多い。私は、試験をしたら、出来るだけ早く答案を返すようにしている。それは、結果をすぐ伝えないと効果が無いからだ。

次にコミュニケーションについて、私は、五年に一度ぐらいアメリカの大学に行って勉強しているが、日本に帰ったら、英語は使わないで、誰にも分かるやさしい簡単な言葉で教え、コーチをし、本を書くようにしなさいと言われた。外国帰りは横文字を使ったがるが、これは避けた方がよい。子供や学生に対して、具体的に指導しなければならぬ。が、我々のしている事は、具体的に欠けている事が多い。一番よく聞く言葉に「頑張れ」とよく聞くが、あれは具体性がない。スポーツでも、どうやって守ればエラーが出ないかをコーチしない駄目だと思ふ。小・子のしつけでも同じだ。

ちゃんとしていたら、いい子だったら、お土産を買ってきてあげるといふが、具体的に言わないと駄目だ。言い放してはいけない。一度言ったらどうなったかを見る。やっても叱られ、やらなくても叱られるなら、やらない方がましだと思ふようになる。親や教師やコーチはこういうミスを侵しているのではなからうか。

心理学で「受容」という言葉があるが、罪を憎んで人を憎まずという精神だと思ふ。やった行為は悪いが、人間としてこれを受け入れるという事と思ふ。何でも言うのは簡単だが、やる事は難しい。子供の失敗や選手の手は受け容れる前に、自分自身の気持ちに正直になる事が、相手を受け容れる第一歩ではないかと思ふ。

第二は個性について。赤ちゃんの時に、既に個性の芽生えがある。同じ兄弟でも、一人ひとりの生まれた時の環境が違うものだ。当然一人ひとりの子供の違いがある。それを無視して、教育もコーチも子育ても出来ないのではなからうかと思ふ。

第三は「気持ちよくくむ」という事です。夫婦の間でも親子の間でも相手の話を聞くという事は偉大なる受容的な行為だと思ふ。中学生から高校生にかけては、相手の話を仲間か聞かない事が多い。坊ちゃんはお母親の話を聞かないし、お嬢ちゃんは父親の話を聞かない。日本の親は、欧米ほど、性(セックス)の違いがあまりないのではなからうか。日本では、セックスアピールもいらぬから親子の間であまり話をしない。これは親の方にも責任がある。母親は、子供の話をよく聞いてやらねば駄目だ。夫婦の間でも親子の間でも友達の間でも、相手の話を一生懸命聞くという事は、人間関係の第一の条件である。そして、その背後にあ

る気持ちをつくむという事が大切ではないだろうか。相手が話している間は待つ。聞く時は相手の顔を見て、話にならなく。そして、その背後にある気持ちをくむ。そうすれば、心の扉がだんだん開かれてくるのでなからうかと思う。

本日は青年を理解するというタイトルを頂きながら、どうやって青年と接触して、どんな失敗をしたかという事ばかり申し上げてきました。予定の時間がきてしまいましたので、最後に一つ二つの事を是非申

Peace be with You

米国研修旅行に同行して

英語英文学科教授

木 鎌 安 雄



九月二十三日十三時二十五分、大阪国際空港発のノースウエスト・オリエン航空〇〇二便に乗った。もうそこはアメリカでした。アメリカの人たち、アメリカの英語が氾濫していました。飛行機は、十四時間もシカゴに向って飛びつづけてました。そして、私たちを乗せたバスは、うれしさのあまり止まることを忘れてしまったかのよう、大草原のまっただ中を全速力で四時間走りつづけてました。

目的地的のローラス大学に着いて、時計を見た。九月二十日十八時三十分でした。この時計の針は、もちろん日本時間です。しかし、この針は、

上げた。

若い人は、ほんとうに可能性を一杯持っていると思う。可能性というのは、十分磨きをかけなければ、それが実力になり、戦力にならない。若い人のする事を辛抱強く見て頂きたい。我々は若い人の失敗を仲々許せないものだが、駄目だと烙(ラク)印を押すや埋もれてしまう。若い人達が失敗しても、辛抱して、絶対に駄目だと思わないようにして頂きたい。どうも長時間辛抱して頂いて有難うございました。(文責 広報室)

私たちの頭と体の状態をよく示してました。私たちは、一瞬のうちに着いてしまったという感じに、ただ圧倒されてました。学生たちは、大きなトランクとともに、これから始まるアメリカの生活に大きな期待と少しの不安を持ちながら、迎えに来たホスト・ファミリーとともに、それぞれの家へと散っていきました。次の日から二週間、四十八名の学生は二つのクラスに分かれて、午前中三時間の英語の授業を受けることになりました。授業の内容を大別すると、文学理解、作文練習、読解練習、発音練習です。

文学理解の時間は、アメリカの作家シャーウッド・アンドラソンの短篇が教材として用いられました。ローラスの英文学科長バワリー先生の強烈な授業は、学生たちに大きな刺激になったようです。大きな身振りと、豊かな感情が、ことばとともに、急流を下る清い水のように、学生たちのところに押し寄せてきました。学生たちは初めのうち、この激流をどう

したら受け止めることができるかわからず、とまどってしまいました。やがて、日本語が使えずノイローゼになりそうだと嘆いていた女子学生も、いつものように、にこにことした明るい笑顔を振り戻していきました。学生たちは、この授業から、先生の教育に対する情熱とローラスの学生たちの友情、それに文学理解のための分析方法を学び取ったと思います。

この授業と対照的な授業は、同じ英文学科のアトキンズ先生の英文理解と英語表現の授業でした。先生は、とても物静かなお方でしたので、学生たちは最初どう対処したらいいかわかりませんでした。しかし、先生がドイツに旅行し、ドイツ語がまったくわからなかったときのつらさを話して、学生たちの状態に理解を示しましたので、学生たちは安心して授業に入っていました。

やがて学生たちの興味と関心を引き出すように、自由に授業を進めていく先生の態度に、学生たちは引き付けられていきました。ある時、市内にある南北戦争の時の砲弾製造所の話になり、まだ訪ねていない学生たちのために、黒板に絵を描いて丁寧に説明してくれました。学生たちにどうしても分かってもらいたいという先生の強い気持と、南北戦争を語ることに

よって、アメリカをこよなく愛している先生の心がとても印象的でした。昼食を学生食堂で取った後は自由時間でした。この中でいくつかの出来事がありました。その一つは、ブランドスタット・アイオワ州知事の来訪です。私たちがローラ大学の関係者、それにマスコミ関係者と警備の警官たちで、広い会場は一杯になりました。英知大学から州知事による水画の掛軸が贈られました。学長先生と松本先生がすばらしい演説をし

ました。この時の模様は、テレビと新聞で詳細に報道されました。

次に、ローラスの物理工学科のシエーファー先生のお宅で、ハンパーガー・パーティーがありました。シエーファー先生のお兄様は教区司祭で、ローラスの神学の先生をなさっておられます。まさに先生のお宅はローラス一家でした。パーティーは、すべてのホスト・ファミリーの方々とともに、夜おそくまで行われました。学生たちは、ここでアメリカ人が持つ親切と勤勉を学び取ったようです。後日、学生たちは、ここで乗馬体験をしました。

この他、テレビ出演、ミシシッピ河くんだり、グラント將軍記念館、植物園、隣のイリノイ州の古い街ガリーナめぐり等がありました。紙幅の都合で割愛いたします。三週間目は、ローラスの学生と一緒に、各自関心のある大学の授業を聴きました。この旅行中の悲しい出来事は、松岡みどり様のご尊父様がお亡くなりになられたことです。松岡さんは、飛行機を乗りついでひとりで大阪にもどられました。みんなご尊父様のご冥福をお祈りしました。

帰る日がやってきました。朝八時半、大学本館の前に集まりました。その時、学生たちとホスト・ファミリーの方々は、みな涙を流し、手を握りあい、抱擁し合い、予定の時間が来て、クロソスとしました。この時、クロソスとしての時間は止り、あ

るのはいくつかの出来事がありました。この旅行のすべてが、この瞬間に集約されていきました。この時、副学長のバーク神父様が「これこそ平和のすがた。世界中がこのようになるがいいのだが」と話しかけてきました。この時、この場所は、本当に心から愛と平和で満ちあふれていました。Peace be with

(一頁より続く)

Kensho-Abe 先生のコレクションを体育館で英知の学生がモデルとなり、ファッションショーを行った。その後、フィナーレを飾ってダンスパーティーが行われ、涙をためて感動に酔いしれながら踊り狂い、呂勝 駿君のゴジラのテーマを背中に感じながら帰途についた。好天気に恵まれ、盛況裡に四日間の幕を閉じた。

(英知祭実行委員長 南谷 悟)

You! ミサの言葉がどこからか聞えてきました。Peace be with you! Peace be with you! 私たちは、愛と平和の体験を深く味わいながら、バスの中の一ととなりました。

カト研の奉仕活動

献血運動



カトリック研究会は昭和三十八年英知大学が創立した年に出来た初めてのクラブであります。現在、部員は七名で少人数ですが、神学科・英語英文学科・イスパニア語イスパニア文学科の各学科の中の四年から一年までの各学年から出ています。(四頁一段中部へ続く)

アルバレス教授、イスパニアの文化勲章に輝く



イスパニア語イスパニア文学科長の J・L・アルバレス先生は、十一月十七日、イスパニア国政府よりイサベル女王勲章を受けられました。正確には「イサベル・ラ・カトリア騎士団所長章」とい、日本での文化勲章に相当します。在日五十一年間 (三頁五段より続く)

カトリック研究会は、カトリックの教えに基づき、年三回の献血運動を始め、クリスマス会、大学祭の研究発表、聖書研究会などの奉仕的な活動を行っています。

中でも、献血運動は昭和五十四年以来、年三回のペースを守って実施しており、昨年は晴れの銀賞を赤十字センターから頂きました。掛け替えない生命を守るために欠かす事の出来ない献血運動に、より一層力を入れていきたいと思っております。

献血運動は全国の皆様の多大な友愛と善意に支えられ、年々協力者も増え、全国の献血者数は、昭和六十年で八百七十七万人を越え、輸血用血液についての課題は山積してはいますが、ほぼその需要量に対応出来るようになってきました。

に及ぶ先生の教育、研究、領事職などを通じての日西交流促進に対するご功績が高く評価されたものです。

授与式は東京からイスパニア大使カミロ・バルシア閣下ご夫妻が来学され、本学大会議室で行われました。

席上、先生は「私の生まれたメデイナ・デル・カンポは、イサベル女王ゆかりの地です。これも何かの縁でしょう。しかし、これ以上人脈がせぬ叙勲などという前科はつきらないつもりですから、ご安心下さい」と、ユーモアを交えた喜びの言葉を述べられました。なお、先生はこのほか、すでにイスパニアの「騎士団員市民功労章」、日本の「勲三等瑞宝章」、アメリカ・フランシスカン歴史学会会員証書」など、数々の栄誉をお受けになっておられます。

しかしながら、目覚ましく高度化する医療、増大する高令者層といった社会情勢により、輸血用血液の需要は質・量共に年々高いレベルが要請され、AIDS問題、また人道的見地からも国内自給率を高める事が重大な課題となっております。従ってこのような状況の中で、献血運動の一層レベル・アップを計るためには、皆様の深いご理解と積極的なボランティアの協力が必要となります。どうかご協力下さいますようお願いいたします。

(神学科三年 吉川史郎)

全国箏曲コンクールで 栄冠獲得

日本箏曲会連盟主催、朝日新聞など後援の第二十八回全 邦曲コンク



カウンセリングルーム だより

今年四月三日よりカウンセリングルームにおいて、西井講師、玉谷カールセララーが希望者申告制でカウ

ルは八月二十三日、大阪市立労働会館で開催された。本学邦楽英華会の英語英文学科三年の飯沼佳子さん、同じく窪典子さん、西語西文学科三年の前田かおりさんの三人が合奏の部に出場し、最高の賞である「日本箏曲会連盟賞」を受賞した。

61年度来談件数集計表 中間報告

内容概略	相談者	学内 (件)		学外 (件)	内容別件数	計
		延べ	セッション (ss)			
修学 教育 相談	学業、学校生活 (不満足)	1	3		4	
	休・退学、登校拒否	1	2		3	
	課外活動	2			2	
進路 職業 相談	その他 (母親カウンセリング)	1	4		5	
	適性 (含ム テスト)	22			22	
適応 相談	カウンセリング研修希望 ()	2	5		7	
	パーソナリティ (含ム テスト)	35	2		37	
	対人関係	2	1		3	
	家庭、家族	1	2		3	
	恋愛、性	2			2	
健康 相談	その他 (間接者相談)	2	1		3	
	身体	1			1	
		延べ 件数	72 (98 ss)	20 (103 ss)	92 (201 ss)	

総 / 92件、 201セッション (ss)、 242時間5分。
11月20日現在 英知大学カウンセリングルーム調べ。

セリングを行って参りました。その結果、十一月二十日までに表の通り多数の方々が来室されましたことをご報告致します。来室され、ご自分の悩い、考えを語ってゆかれる方が多いことにスタッフ一同嬉しいと言わねば、心配であると言わねば、複雑な気持ちでありますが、心に思いたつ事がおありの際には遠慮なくご利用下さいますようお願い申し上げます。

関西学生アーチエリー連盟主催の第二十四回新人戦は十月十九日、大



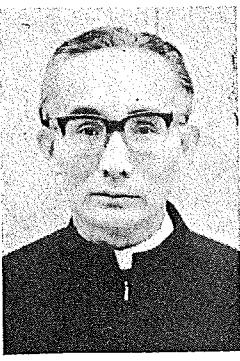
研究室だより

阪外国語大学で開かれた。英語英文学科一年細木茂実さんは、女子総合第三位に、また同じく南千尋さんは第六位に入賞した。なお細木さんは女子初心者部の部に第二位に入賞した。

本鎌安雄教授 (英語英文学科) は、十月十日、北星学園大学で開かれたヘンリー・ソーロウ協会秋季全国大会において「トマス・マートン」から見たヘンリー・D・ソーロウの宗教的態度」と題する研究発表を行った。井上博嗣教授 (英語英文学科) は、十月十日、北星学園大学で開かれた日本アメリカ文学会第二十五回全国大会において、「ヘンリー・ソーロウの労働観」と題する研究発表を行った。

アンドレ・コレイン講師 (神学科) は「聖書に見るイエスの姿」を出版した。オリエンズ宗教研究所発行、一四六頁・定価八〇〇円

林省吾教授 (人間学) 帰天



去る八月二十六日より膀胱のため療養中であつた林省吾教授は、葉石効なく、十二月一日午前二時永眠された。享年六十五才。葬儀は二日午後二時よりカトリック六甲教会においてしめやかにとり行われ、多くの教職員、信徒らが参列した。林教授は元イエズス会管区長として活躍、また秀れた霊的指導者として仰がれた。